

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●五十嵐雄祐騎手のJRA障害通算勝利数が単独10位となる

9月5日(日)の4回小倉8日・第1レースではシェンクラートが1着となり、同馬に騎乗した五十嵐雄祐騎手(美浦・フリー)は、JRA障害通算137勝目をあげました。これは出津孝一元騎手の136勝を抜き、JRA史上単独第10位の記録となります。

●2歳ダート1700mの中央競馬レコードタイム更新

9月4日(土)の4回小倉7日・第2レースではコンクパールが1分44秒8(不良)のタイムで優勝しました。これは2017年8月12日(土)の1回札幌5日・第1レースでサージュミノルが記録した1分44秒9(稍重)を更新する、2歳ダート1700mの中央競馬レコードタイムとなります。

●各場の夏季リーディングジョッキーが決定

9月5日(日)をもって2回札幌競馬・4回新潟競馬・4回小倉競馬が終了しました。1回札幌で7勝、2回札幌で13勝、計20勝をあげた横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)は、自身初となる札幌開催リーディングを獲得。横山騎手は函館開催でも15勝をあげてリーディングに輝いており、合わせて35勝で北海道開催のリーディングジョッキーとなりました。また新潟では、3回新潟で11勝、4回新潟で4勝、計15勝をあげた福永祐一騎手(栗東・フリー)が、2年連続3回目となる夏の新潟リーディングジョッキーを獲得。小倉では3回小倉で10勝、4回小倉で11勝、計21勝をあげた松山弘平騎手(栗東・フリー)が2年ぶり2回目となる夏の小倉リーディングジョッキーに輝きました。なお本年の小倉競馬は全日程が終了し、年間リーディングは23勝の鮫島克駿騎手(栗東・浅見秀一厩舎)が獲得しています。

●今年も「JRAアニバーサリー」を開催

9月20日(祝・月)の4回中山5日および5回中京5日は、中央競馬をご愛顧いただいているお客様に対し感謝の気持ちをお伝えする「JRAアニバーサリー」として開催されます。当日は全競走の全投票法(WIN5を含む)の払戻率が「JRAスーパープレミアム」として80%に設定されるほか、10年前・20年前の年度代表馬の馬名を冠した「2011メモリアル ジェンゲルポケットC」が中山で、「2011メモリアル オルフェーヴルC」が中京で実施されます。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド盛岡の結果

2021ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド盛岡は9月7日に実施され、第1戦は篠谷葵騎手(船橋)、第2戦は塚本涼人騎手(岩手)が優勝しています。

●ビギナーズC(盛岡)はカクテルライト【各地の主要2歳重賞】

ビギナーズC(9月7日、盛岡、1400m)は、先手を取った4番人気の北海道からの転入馬カクテルライト(牝、父カレンブラックヒル)が、1番人気のアップテンペストに6馬身差を付けて逃げ切り重賞初制覇。リリーC(9月2日、門別、1200m、牝馬)は、出遅れて後方から追上げた6番人気のスピーディキック(父タイセイレジェンド)が、ゴール寸前で差し切り勝ちを収めました。

●マツリダスティールが不來方賞を大差勝ち【各地の主要3歳重賞】

不來方賞(9月5日、盛岡、2000m)は、逃げた3番人気のマツリダスティール(牡、父エキストラエンド)が、2番人気の牝馬ゴールデンヒーローを2秒6も引き離して圧勝。重賞5連勝中で単勝1.8倍の支持を集めたリュウノシンゲンは更に5馬身遅れの3着でした。園田オータムトロフィー(9月9日、園田、1700m)は、後続を引き付けて逃げた2番人気のエイシンビッグボス(牡、父トランセンド)がそのまま押し切り、初の重賞勝ちを果たしています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ジョッキークラブゴールドC~マックスプレイヤーが快勝

これまでよりも4週間前倒しとなり、開催場所もベルモントパーク競馬場からサラトガ競馬場(米国ニューヨーク州)へと移されたG1ジョッキークラブゴールドC(3歳上、ダート2000m)が9月4日に行われました。勝ったのはR.サンタナJr.騎手が騎乗したマックスプレイヤー(牡4歳、父オナーコード、S.アスムッセン厩舎)。2番手で流れに乗ると、直線で力強く抜け出して、昨年の覇者ハッピーセイバーに4馬身差をつけました。マックスプレイヤーは昨年のG1ベルモントS3着馬。今年は始動戦となったサウジCが11着、続くG3ビュリコススペシャルSも6着と連敗スタートとなりましたが、前走7月のG2サバーバンS(ダート2000m)で今年のG1ドバイワールドCの勝ち馬ミスティックガイドを破って優勝していました。

●G1ムーランドロンシャン賞~バーイードがデビュー5連勝

9月5日にフランスのバリロンシャン競馬場で行われたG1ムーランドロンシャン賞(3歳上、芝1600m)はイギリスからの遠征馬バーイード(牡3歳、父シーザスターズ、英W.ハガス厩舎)が中頃から鋭く伸びると、昨年のG1ブリーダーズCマイルの勝ち馬オーダーオブオーストラリアに1馬身 $\frac{1}{4}$ 差をつけて優勝。これで今年6月のデビューから5連勝でのG1初制覇となりました。